

「Open RAN 推進分科会 会合」第4回議事録

1. 日 時

2022年12月12日(月) 09:00~09:40

2. 場 所

Web 会議 (Cisco Webex)

3. 出席者 (敬称略、順不同)

主 査 : 中尾 彰宏[東京大学]

森川 博之[東京大学]

副主査 : 株式会社 NTT ドコモ (以下、ドコモ) 安部田貞行

KDDI 株式会社 (以下、KDDI) 渡辺伸吾

ソフトバンク株式会社 (以下、ソフトバンク) 阿部佳市

楽天モバイル株式会社 (以下、楽天モバイル) 朽津光広

発表者 : 富士通株式会社 佐藤直人

事務局 : 総務省、三菱総合研究所 (以下、事務局 (MRI))

その他 : 会員各社

4. 配布・投影資料

1-0: 議事次第

1-1: 富士通株式会社「Open RAN 取り組み」

5. 議事要旨

5-1 開会挨拶

中尾主査から挨拶があった。

挨拶の内容は下記の通り。

オープン RAN を巡る状況は、この分科会で毎回活発な議論が展開されており、重要な動向と認識している。今回の分科会を通して、知見を深めていただきたい。そして、vRAN だけでなく RIC も国内外の通信機器ベンダが力を入れて取り組んでいる。この方向で進めていただきたい。

5-2 議事

配布資料の確認の後、下記の通り議事が進められた。

(1) Open RAN に関する情報提供として、富士通株式会社より、「富士通の Open RAN 取り組み」の説明 (投影資料 1-1) が行われた。

【住友電気工業 宮田】

O-RAN の動きとして、特に今年からセキュリティに力を入れていると認識している。数年前から米国等で起こっているゼロトラストの流れなどを踏まえて、O-RAN でも力を入れている状況か。

【富士通 佐藤】

O-RAN に限らず、安全保障の観点でソフトウェアのセキュリティが重要になっていると考え、取り組んでいる。また、米国でのエグゼクティブオーダーの影響は間違いなくある。

【東京大学 中尾】

O-RAN の普及に際した課題において、運用高度化とセキュリティに関してご紹介いただいた。特に後者の SBOM について、富士通さんは受賞したが、『5G Challenge』への日本からの参加状況はいかがか。また、SBOM に関連した NTIA の取り組みは今後も大きくなっていきそうか。

【富士通 佐藤】

弊社の米国拠点を中心に参加しており、日本からの参加は多くないと認識している。また SBOM では、各ベンダが定義を持ち寄り、議論を進めている途上。SBOM に関連した NTIA の取り組みへの参加数は多い状況ではないが、今後も取り組みは広がっていくと考えられる。

【東京大学 中尾】

国内ベンダの活躍を期待している。

(2) 事務局（MRI）より、今後の予定・御講演者募集として、下記テーマの募集が行われた。

(ア) 次回の開催予定

① 1月下旬ごろを予定

(イ) 講演募集テーマ

① 最新の Open RAN 状況

② Open RAN のメリット

③ Open RAN の諸課題

④ 相互接続試験用テストベッド

⑤ Open RAN 新技術

(ウ) 御講演に関するご連絡先：b5g_consortium@soumu.go.jp

5-3 閉会挨拶

中尾主査から、講演者への謝辞及び今後への期待についてのコメント、および閉会の挨拶があり、

本会合は閉会した。

今後への期待についてのコメントは下記の通り。

O-RAN はマルチベンダ化でステイクホルダーが新しいエコシステムを形成しており、経済安全保障でも期待がある。一方、コンポーネントに分かれたことで、消費電力の最適化やセキュリティにおいて課題がある。今日はそれらの課題に対して、各社が取り組み始めているという報告であった。今後も、日々の各社の取り組みのアップデートを発表いただけたらと思う。

以 上